



学校目標：「志と誇りを胸に、夢に挑戦し続ける生徒の育成」

【第6号】令和6年8月9日発行

発行者 唐津市立肥前中学校

文責 木村 信人



本校ホームページQRコード

<https://www.education.saga.jp/hp/hizen-j/>

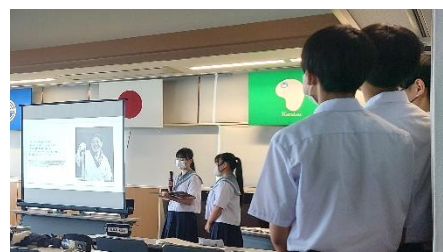
「平和集会が」が行われました！

8月6日（火）に、生徒会が中心となって、「平和集会」テーマ：『未来のために、私たちができること』が行われました。最初に、生徒会長の〇〇〇〇〇さんが、「平和集会」の意義と目的を述べて、会が始まりました。（裏面に紹介）

次に、生徒会本部の生徒たちが、「ヒロシマ、消えた家族」を朗読しました。

「原爆が投下された当時、広島町の暮らしていた鈴木六郎さん一家の、原爆投下前までの幸せな生活。そのすべてをうばいさった原爆。でも、この家族が生きた証を消すことまでは、決してできません。」

スライドで鈴木一家の幸せな生活を映しながらの朗読に、生徒たちも、真剣に聞き入っていました。



また、NPO 法人テラ・ルネッサンスの佐々木純徹さんを講師にお呼びして～アフリカの子ども兵、コンゴの紛争と私たちの生活とのつながり～を題に、ご講演をいただきました。佐々木先生は「原爆投下は、79年前のことですが、世界では、今現在も戦争や紛争が起こっている。」「そして、その戦争や紛争は日本人の私たちの生活にも密接に関係している。」「その中でも『子ども兵』について皆さんに知ってもらい、平和について考えて欲しい。」と話されました。



○子どもが兵隊になるということがビックリしました。 ○子ども兵になった人たちの心は、深く傷ついていると感じました。
○子ども兵は、誘拐されて兵隊にさせられていることに驚いた。 ○子ども兵に、自分の育った村の人々や親を殺させることにショック。
○遠い国（アフリカ）でのことが私たちの生活にも大きく関わっていることを初めて知った。（レアメタル・カカオ・ダイヤモンド）
○戦争や紛争が、全世界から早くなくなればいいと思った。 ○もっとコミュニケーションが大切だとも思いました。
○事実や真実を知ること、考えること、自分なりに動くことがこれからとても重要だと思った。 ○もっと世界を知ろうと思った。
○私たちの少しの行動で、世界が変えられる。自分たちの小さな役割を果たしたい。 ○家族に話をひろめて感想を言いたい。

校門（門柱）がきれいになりました。

毎日うだるような暑い日が続いています。そんな中、校門の門柱が汚かったので、用務員の青木さんに高圧洗浄機で、掃除をしていただきました。おそらく、10年以上はしていないだろうということで、みっしりと苔がへばりついていました。青木さんは、この暑い中、校内の除草作業、花壇や畑の整備等をしてくださっています。本当に感謝です！



PTA 夏休みの除草作業及び窓磨き

【日時】8月24日（土） 15:00～16:30

【集合】役員：部室前 役員以外の会員：お子様の教室

【内容】役員：草刈り 役員以外の会員：窓磨き

【持ち物】草刈り道具 窓磨き用具（ワイパー等）

「平和集会の意義と目的」

生徒会長 ○○○○○

79年前、1945年に太平洋戦争は終戦を迎えました。その戦争では、広島と長崎に原子爆弾が投下され、一瞬にして多くの命が奪われました。今日、8月6日は、広島に原爆が投下された日です。太平洋戦争での日本人の犠牲者は軍人・民間人を含め約310万人といわれています。

私たち3年生は、5月に修学旅行で知覧特攻平和会館に行きました。そこには、太平洋戦争末期、戦争に勝つために、飛行機もろとも敵艦に体当たり攻撃をした陸軍特別攻撃隊員の遺品や関係資料などが展示されていました。

若くして亡くなられた特攻隊の遺影や遺品・遺書が並び、大切な家族と過ごすことも、友人と学校に通うことも、自分のために命を燃やすことさえも許されなかった、そんな時代を生きた人々の日々が思い起こされ、胸が苦しくなるとともに、今ある平和の尊さを改めて感じました。

戦後79年が経ち、痛みを知らない人の方が多くなりました。私もその中のひとりですが、戦争は絶対にしてはいけなく、とこれまでの学習を通して強く思っています。

今年の平和集会のテーマは「未来のために、私たちにできること」です。

講演では、元自衛官として「紛争の現状」を目の当たりにされ、現在は、アジア・アフリカの紛争で影響を受けた人々に支援活動をなさっておられる佐々木さんのお話をしっかり聞いて、「今、私たちにできることは、何か。」をひとりひとりが考える時間にしましょう。

これからも戦争と平和について、もっと学んでいくことを誓い、今日の平和集会の意義と目的とします。



うちはね、^{ひろし}まの^{まち}の ^{はりまや}町に あるの。
おとうさんが ^{とこや}さんをしていて、おかあさんが ^お店を ^てつだってるの。
おとうさんの ^{なま}えは、^{鈴木}六郎。
きものを ^きているのが、おかあさんの ^{フジエ}。
白い ^{シャツ}が ^{英昭}おにいちゃん、となりが ^{わたし}、^{公子}。
そのとなりは、いとこの ^{箱子}ちゃんです。

すべてをうばいさった、あの^{げん}爆。
でも、このかぞくが^いきたあかしを^く消すことまでは、
けっしてできません。

The atomic bomb, it took away everything.
What's left is the proof of the family's existence.
And that is something, a bomb could never destroy.

(出版：ポプラ社)